

「世界遺産の海」とともに生きるSDGs未来都市むなかた

福岡県宗像市（2020年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

北九州市と福岡市のほぼ中間に位置し、アクセスに優れている。離島を有し、そのうちの沖ノ島は宗像地域の人々によって、古くから守り伝えられており、2017年にユネスコ世界文化遺産に登録された。一方、その遺産や自然環境の保全、担い手不足、空き地・空き家の増加への対応が課題である。そのため、自然、歴史、文化、住環境、コミュニティなどの優れた地域資源を活用し、まちなか再生及び地域活性化を図ることで、環境保全と賑わい創出の好循環を生み出し、多様な世代が生き生きと暮らせる持続可能な地域循環共生社会の形成を目指す。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

本市が有する全ての資産を活用しながら、まちの賑わいを取り戻し、人口減少や高齢化社会への対応を図る。また、まちの賑わいが持続可能な環境保全活動を実現し、世界遺産の普遍的価値を持続させる。この好循環により、「地方創生」と誰一人取り残すことなく「世界遺産の海」とともに生きるSDGs未来都市むなかたを実現する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

●「ボトルtoボトル」の実証実験

民間企業と連携協定を締結し、独自のケミカルリサイクル技術を用いたペットボトルの水平リサイクルの実証実験を実施した。

●宗像ウニプロジェクト

事業者・大学・漁協と連携して、磯焼けの原因である駆除ウニの陸上養殖実証事業を行い、養殖したウニの市内飲食店での販売や、地元小学生を巻き込んだ環境学習を実施した。

●大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト

市内2大学と、連携協定を結ぶ市外4大学と協働で、大学生の柔軟な発想や大学の強みを活かして、外国籍の児童を対象とした学習支援、認知症への理解促進など28の事業を展開した。

5. 取組推進の工夫

- ・多様なステークホルダーと連携を図り、効率的かつ効果的に地域課題の解決に努めている。
- ・庁内において、SDGsを意識した業務への取組や理解の促進を図るべく、外国人にも分かりやすい「やさしいにほんご講座」や、脱炭素施策への理解と活用を図る研修などを開催している。

6. 取組成果

●学校給食食品残渣堆肥化の調査研究

循環型社会の形成に向けた取り組みとして、市内小学校で学校給食の調理くず（約40kg）の堆肥化を実施。出来た堆肥（約100L）を使って鉢植えを作成し、卒業式に展示することで環境に対する関心の向上を図った。

●公用車の電動車切り替え、EVバス導入

公共分野における脱炭素の推進するべく、公用車の電動車への切り替えと、ふれあいバスのEV化を実施。EVバスは災害時に移動式シェルターとして活用でき、災害レジリエンスが強化された。

- ・公用車19台を電動車（EV1台、HV18台）に切り替え
- ・分別収集車両1台をバイオディーゼル燃料（B100）に切り替え
- ・ふれあいバス1台をEV車に切り替え

7. 今後の展開策

団地再生においては、都市機能の集積による持続可能な住宅団地の実現に向けて、複合拠点事業の推進と、官民連携による自動運転技術の実証事業を実施する。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

福津市と共同でSDGsに資する優れた取り組みの展示やワークショップを開催し、SDGsの啓発を図った。

SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

福岡県宗像市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

宗像市 SDGs未来都市計画

—

2020年度

第 1 期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

福岡県宗像市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（ 1 ） 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	農業者の売上高【2.4】	2018年 25 億円	2022年 24 億円	2030年 28 億円	-33%	第2期計画では、農業漁業の流通改善や、飲食店と一次生産者のマッチング等により、農業者の売上高向上を図る。
2	fabbit宗像の活用による女性の創業者数【5.c, 8.3, 17.17】	2020年 0 人	2022年 4 人	2030年 15 人	27%	第2期計画では、創業スクールや補助金など創業者支援を推進していく。
3	市内総生産【8.1】	2016年 2,110 億円	2021年 2,136 億円	2030年 2,287 億円	15%	第2期計画では、域内産業の活性化、産業間・事業者間の取引促進により域内経済循環の促進に取り組む。
4	創業者数【8.3】	2019年 23 人	2022年 84 人	2030年 294 人	23%	第2期計画では、創業スクールや補助金など創業者支援を推進していく。
5	観光入込客数【8.9】	2018年 5,134 千人	2022年 4,183 千人	2030年 5,500 千人	-260%	第2期計画では、宿泊需要喚起策や観光消費喚起策の検討を行い、観光入込客数の増加を図る。
6	ブランド化に取り組む鍾崎天然とらふくの価格（フェア取引価格）【1.3】	2019年 7,308 円/kg	2022年 7,300 円/kg	2030年 7,300 円/kg	100%	目標が達成できており、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
7	高齢者の地域での居場所等に参加した人数【3.4】	2018年 26,313 人	2022年 20,698 人	2030年 29,913 人	-156%	第2期計画では、アフターコロナを見据えた高齢者の居場所づくり事業を推進していく。
8	安心して子育てができると感じる市民の割合【4.2, 4.a, 5.4】	2017年 75 %	2022年 69 %	2030年 82 %	-92%	第2期計画では、子どもの健やかな成長と生きる力の習得を促すため、指標を見直し更なる取組の推進を図る。
9	転入者数【11.3】	2017年 4,282 人	2022年 4,548 人	2030年 4,932 人	41%	第2期計画では、今までの定住施策に加え、若者の定着や移住促進施策を具体化し、転入者数の増加を図る。
10	快適な生活環境の保全に関する満足度（市民アンケート）【11.a】	2018年 3.06	2022年 3.12	2030年 3.66	10%	第2期計画では、誰もが快適に安心して暮らせる環境を確保するため、指標を見直し更なる取組の推進を図る。
11	人口集中地区内の1 haあたりの人口【11.3】	2015年 59.2 人	2020年 53.6 人	2030年 66.7 人	-75%	経年で計測できる指標ではないため、第2期計画では削除。
12	世界遺産構成資産の保全活動状況（活動回数）【11.4, 12.2, 12.3, 14.1, 15.4】	2019年 14 回	2022年 15 回	2030年 20 回	17%	第2期計画では、周辺環境の保全及び経過観察を行い、構成資産の適正な保存管理を推進する。
13	リサイクル率【12.5】	2019年 25.2 %	2022年 23.8 %	2030年 38.2 %	-11%	第2期計画では、ごみの発生抑制・再利用に係る取組を推進し、リサイクル率の向上を図る。
14	市内の温室効果ガス総排出量【13.2】	2013年 604,668 t-CO2	2019年 379,052 t-CO2	2022年 530,580 t-CO2	305%	第2期計画では、現在の実績に合わせて目標値を見直し、更なる取組の推進を図る。
15	市民1人あたりの二酸化炭素排出量【13.2】	2013年 6.20 t-CO2/人	2021年 3.79 t-CO2/人	2022年 5.44 t-CO2/人	317%	No.14で地球温暖化防止や低炭素化に向けた取組の効果が測れるため、第2期計画では削除。
16	環境保全のボランティア事業への参加者数【14.1, 15.4】	2019年 3,645 人	2022年 2,399 人	2030年 4,235 人	-211%	第2期計画では、市民等へ向けたSDGs啓発など取組によって、環境問題に対する意識の醸成を図る。

（ 2 ） 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	観光分野における「稼ぐ」体制の確立	観光による市内消費額	2018年 4,548 百万円	2022年 5,993 百万円	2022年 4,600 百万円	2779%	目標を大幅に達成しており、第2期計画では目標値を見直し更なる推進を図る。
2	自然や癒しの空間を活かした「ワーケーション」の提案による離島振興	観光入込客数	2018年 5,134 千人	2022年 4,183 千人	2022年 5,200 千人	-1441%	第2期計画では、宿泊需要喚起策や観光消費喚起策の検討を行い、観光入込客数の増加を図る。
3	官民連携による創業支援	fabbit宗像の活用による女性の創業者数	2020年 0 人	2022年 4 人	2022年 3 人	133%	目標が達成できており、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。

2020年度

第 1 期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

福岡県宗像市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
4	官民連携による創業支援	創業者数	2019年 23 人	2022年 84 人	2022年 93 人	87%	目標達成に向けて、創業スクールや補助金など創業者支援を推進していく。
5	農業・水産業の基盤強化と高付加価値化	ブランド化に取り組む鐘崎天然とらふくの価格	2019年 7,308 円/kg	2022年 7,300 円/kg	2022年 7,300 円/kg	100%	目標が達成できており、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
6	農業・水産業の基盤強化と高付加価値化	農業者の売上高	2018年 25 億円	2022年 24 億円	2022年 26 億円	-100%	第2期計画では、農業漁業の流通改善や、飲食店と一次生産者のマッチング等により、農業者の売上高向上を図る。
7	子どもの健やかな成長・発達を支える子育て支援	地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）	2019年 3.08	2022年 3.01	2022年 3.24	-44%	第2期計画では指標の見直しを行い、更なる取組の推進を図る。
8	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進	地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）	2019年 3.08	2022年 3.01	2022年 3.24	-44%	第2期計画では指標の見直しを行い、更なる取組の推進を図る。
9	ふるさと学習やグローバル人材の育成	国際交流ボランティアのマッチング件数	2018年 7 件	2022年 4 件	2022年 11 件	-75%	第2期計画では、大学や企業、地域と連携し、グローバル人材の育成と国際交流を図る取組を推進する。
10	高齢者を地域で支えあう仕組みづくり	高齢者の地域での居場所等に参加した人数	2018年 26,313 人	2022年 20,698 人	2022年 27,513 人	-468%	第2期計画では、アフターコロナを見据えた高齢者の居場所づくり事業を推進していく。
11	団地再生の推進	人口集中地区の1 h aあたりの人口	2015年 59.2 人	2020年 53.6 人	2022年 62.7 人	-160%	経年で計測できる指標ではないため、第2期計画では削除。
12	団地再生の推進	調和のとれた土地利用と魅力ある景観への形成に関する満足度（市民アンケート）	2018年 2.91	2022年 2.97	2022年 3.11	30%	第2期計画では指標の見直しを行い、更なる取組の推進を図る。
13	新たな地域公共交通体系の確立	人口集中地区の1 h aあたりの人口	2015年 59.2 人	2020年 53.6 人	2022年 62.7 人	-160%	経年で計測できる指標ではないため、第2期計画では削除。
14	新たな地域公共交通体系の確立	調和のとれた土地利用と魅力ある景観への形成に関する満足度（市民アンケート）	2018年 2.91	2022年 2.97	2022年 3.11	30%	第2期計画では指標の見直しを行い、更なる取組の推進を図る。
15	コミュニティの再構築	地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）	2019年 3.08	2022年 3.01	2022年 3.24	-44%	第2期計画では指標の見直しを行い、更なる取組の推進を図る。
16	コミュニティの再構築	住民参加による地域イベントの実施数	2018年 50	2022年 41	2022年 62	-75%	第2期計画では、コミュニティ運営協議会、大学、企業等と連携して、学びや活動の場を提供することで、高齢者の居場所づくりやコミュニティ活動の推進に取り組んでいく。
17	国土強靱化計画の策定と推進	環境基準達成率（釣川水質調査BOD、道路騒音）	2018年 99.3 %	2022年 89.2 %	2022年 100 %	-1443%	第2期計画では、家庭・事業所における適切な排水処理に関する意識啓発、生活騒音に関する住民への啓発等の取組を通して、環境基準の達成に努める。
18	宗像国際環境100人会議	『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』に関心がある人の割合	2018年 67 %	2022年 64 %	2022年 73 %	-50%	第2期計画では、世界遺産学習を核とした「ふるさと学習」や、様々な団体や機関と連携した季節ごとの体験イベントを実施することで、『『神宿る島』宗 像・沖ノ島と関連遺産群』の価値と重要性を市内外へ伝えていく。
19	宗像国際環境100人会議	世界遺産構成資産の保全活動状況（活動回数）	2019年 14 回	2022年 15 回	2022年 18 回	25%	目標達成に向けて、周辺環境の保全及び経過観察を行い、構成資産の適正な保存管理を推進する。
20	宗像国際環境100人会議	環境保全のボランティア事業への参加者数	2019年 3,645 人	2022年 2,399 人	2022年 4,235 人	-211%	第2期計画では、ゼロカーボンシティ実現に向けた温暖化対策や、市民等へのSDGs啓発に向けた取組によって、環境問題に対する意識の醸成を図る。

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
21	環境保全活動の推進	環境基準達成率（釣川水質調査BOD、道路騒音）	2018年 99.3 %	2022年 89.2 %	2022年 100 %	-1443%	第2期計画では、家庭・事業所における適切な排水処理に関する意識啓発、生活騒音に関する住民への啓発等の取組を通して、環境基準の達成に努める。
22	環境保全活動の推進	環境保全のボランティア事業への参加者数	2019年 3,645 人	2022年 2,399 人	2022年 4,235 人	-211%	第2期計画では、ゼロカーボンシティ実現に向けた温暖化対策や、市民等へのSDGs啓発に向けた取組によって、環境問題に対する意識の醸成を図る。
23	環境教育・環境学習による人づくり	環境保全のボランティア事業への参加者数	2019年 3,645 人	2022年 2,399 人	2022年 4,235 人	-211%	第2期計画では、ゼロカーボンシティ実現に向けた温暖化対策や、市民等へのSDGs啓発に向けた取組によって、環境問題に対する意識の醸成を図る。
24	3 Rの推進	自然環境の保全と再生に関する満足度（市民アンケート）	2018年 3.07	2022年 3.18	2022年 3.27	55%	目標達成に向けて、省エネ活動の啓発や、公共施設の省エネルギー化及び再生可能エネルギー導入に向けた取組みを推進する。
25	3 Rの推進	リサイクル率	2019年 25.2 %	2022年 23.8 %	2022年 38.2 %	-11%	第2期計画では、ごみの発生抑制・再利用に係る取組を推進し、リサイクル率の向上を図る。
26	3 Rの推進	ごみ総排出量	2018年 31,092 t	2022年 29,613 t	2022年 29,298 t	82%	目標達成に向けて、ごみの排出ルールや減量について周知啓発を行うとともに、ごみの適正な処理や資源物の分別収集を推進する。

（3）第 1 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容 （1）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況 ・指標1.農業者の売上高：農業漁業の流通改善による産業間取引の活性化や、飲食店と一次生産者のマッチングによる販路拡大により、農業者の売上高向上を図る。 ・指標5.観光入込客数：アフターコロナの時代に合った宿泊需要喚起策や観光消費喚起策の検討が必要である。 ・指標7.高齢者の地域での居場所等に参加した人数：新型コロナウイルスの影響により大きく低下した状況から回復傾向にあり、アフターコロナを見据えて今後も高齢者の居場所づくり事業を継続して取組んでいく。 ・指標8.安心して子育てができると感じる市民の割合：教育・子育て環境や地域福祉の充実に、より一層取り組んでいく必要がある。 ・指標11.人口集中地区内の1 haあたりの人口：団地再生等による生活サービス機能の集積や、AI活用型オンデマンドバスによる地域公共交通の確保により、まちなかへの居住誘導を図る。 ・指標13.リサイクル率：民間企業と連携し、フードドライブや服の交換会等を実施したほか、新たにペットボトルの「ボトルtoボトルのリサイクル推進」に関する連携協定を締結した。引き続きごみの発生抑制・再利用に係る取組を推進していく。 ・指標16.環境保全のボランティア事業への参加者数：ゼロカーボンシティ実現に向けた温暖化対策の実施、海の環境保全の促進や市民等へのSDGs啓発に向けた取組によって、環境問題に対する意識の醸成を図る。 （2）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況 ・指標 2.観光入込客数：アフターコロナの時代に合った宿泊需要喚起策や観光消費喚起策の検討が必要である。 ・指標6.農業者の売上高：農業漁業の流通改善による産業間取引の活性化や、飲食店と一次生産者のマッチングによる販路拡大により、売上高の向上を図る。 ・指標7.8.15.地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）：コミュニティ活動やその基盤である自治会活動を継続できる体制を構築するとともに、自治会加入促進の支援を行い、コミュニティ活動の推進に努める。 ・指標9.国際交流ボランティアのマッチング件数：大学や企業、地域と連携し、むなかた子ども大学など多くの事業を展開することで、グローバル人材の育成と国際交流の推進を図る。 ・指標10.高齢者の地域での居場所等に参加した人数：新型コロナウイルスの影響により大きく低下した状況から回復傾向にあり、アフターコロナを見据えて今後も高齢者の居場所づくり事業を継続して取組んでいく。 ・指標11.13.人口集中地区の1 haあたりの人口：団地再生等による生活サービス機能の集積や、AI活用型オンデマンドバスによる地域公共交通の確保により、まちなかへの居住誘導を図る。 ・指標16.住民参加による地域イベントの実施数：新型コロナウイルスの影響による住民参加イベントの中止や、参加人数の制限等により、地域イベント実施数が減少している。今後は、コミュニティ運営協議会、大学、企業等と連携して、学びや活動の場を提供することで、高齢者の居場所づくりやコミュニティ活動の推進に取り組んでいく。 ・指標17.21.環境基準達成率（釣川水質調査BOD、道路騒音）：家庭・事業所における適切な排水処理に関する意識啓発、生活騒音に関する住民への啓発等の取組を通して、環境基準の達成に努める。 ・指標18.「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」に関心がある人の割合：世界遺産学習を核とした「ふるさと学習」や、様々な団体や機関と連携した季節ごとの体験イベントを実施することで、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の価値と重要性を市内外へ伝えていく。 ・指標20.22.23.環境保全のボランティア事業への参加者数：ゼロカーボンシティ実現に向けた温暖化対策の実施、海の環境保全の促進や市民等へのSDGs啓発に向けた取組によって、環境問題に対する意識の醸成を図る。 ・指標25.リサイクル率：民間企業と連携し、フードドライブや服の交換会等を実施したほか、新たにペットボトルの「ボトルtoボトルのリサイクル推進」に関する連携協定を締結した。引き続きごみの発生抑制・再利用に係る取組を推進していく。 ●成果 経済：fabbit宗像の活用による女性の創業者数および創業者数は増加傾向にあり、商工会や民間事業者等と連携した創業支援による成果が現れている。 社会：全国的に人口減少が続く中で「定住都市むなかたの実現」に向けた取組により、転入者数は増加している。 環境：市内の温室効果ガス総排出量と市民1人あたりの二酸化炭素排出量は、目標値を大きく上回る結果となっている。 ●課題 経済：新型コロナウイルスの影響が続き、市内総生産および観光入込客数の進捗が思わしくない。 社会：高齢者の地域での居場所等に参加した人数の割合は低下している。 環境：環境基準達成率、リサイクル率の実績が著しく低下している。 ●今後の展望 経済：市内経済循環の促進と外貨の獲得による地域産業の活性化や、民間と連動・連携した誘客を図る。 社会：重層的支援体制を構築していく中で、地域づくり事業として世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備を進めていく。 環境：各指標の停滞要因を分析したうえで、環境基準の達成やリサイクル率の向上に努める。

（4）有識者からの取組に対する評価

・宗像市の事業計画は比較的数が多いこともあり、次期計画では各課の横断的な事業推進が望まれる。自治体だけでなく、県や事業者、若者を巻き込むために、県が対象とした「福岡県SDGs登録制度」、「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」により地域との連携を図るべきである。

・全体的に取組が総花的であり、指標も多岐にわたり、またその多くで未達成が目立つ。第 2 期計画では核となる事業と指標を現実的なものへと絞り、確実に進捗につなげていただくことを期待する。